

# サポート

No. 184

令和4年3月24日発行  
県教育庁特別支援教育課指導班

## 祝 卒業

令和4年3月、県内の各特別支援学校では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、リモートを活用するなど工夫を凝らしながら卒業式が行われました。今回は、大曲支援学校と横手支援学校の様子をお伝えします。

### 県立大曲支援学校

名残雪がちらつく3月9日（水）、大曲支援学校では、小学部5名、中学部15名、高等部22名の卒業式が行われました。訪問学級の児童生徒もオンラインで参加し、心地よいピアノの音色が響く中、卒業生一人一人へ小林司校長から卒業証書が授与されました。しっかりと校長を見つめる眼差しからは、達成感とともに新たな未来へ向かう気概が感じられました。校長は式辞で、各学部卒業生のこれまでの活動の様子を紹介し、「卒業は一つの節目。子どもたちは節目、節目で一つずつ大人になっていく」「これからも周りの人に愛され、瞳かがやき笑顔あふれる姿を見せてほしい」と激励しました。在校生が卒業生との思い出や感謝の気持ちを述べると、卒業生からは在校生への期待や周囲への感謝が語られ、『挨拶』と『礼儀』を忘れず、新たな目標に向かって進んでいく」と決意を新たにしていました。

式が終わり、在校生が見送る中、思い出深い学び舎を後にする卒業生の門出を祝し、残月花火が空高く打ち上げられました。花火の中から卒業クラスごとに描いた長旗が落下傘に吊されてゆらゆらと舞い降り、卒業生は歓声を上げ、思い出に浸りながら巣立っていきました。（教頭 渡部 剛）



[卒業証書授与]



[校長式辞]

### 県立横手支援学校

3月11日（金）、はれの日にあふさわしい春の日差しの中、小学部5名、中学部17名、高等部17名の卒業式が行われました。

式では松井克彦校長より「夢は追うもの、希望は支えになるもの、願いはかなえるもの」というメッセージとともに、「仲間と共に学んだことを胸に、学校でがんばってきたこれまでと同じように、真っ直ぐな気持ちで一つずつ自信をつけながら、風の翼を広げて未来に向かって大きく羽ばたいてください」と卒業生の未来に向けた式辞が贈られました。

卒業生代表の挨拶では、「最後まであきらめないこと、仲間と力を合わせて一つのことを成し遂げることの大切さを学んだ」「これからも家族や地域の方々への感謝の気持ち、友達との絆を忘れずに過ごしていきたい」とこれまでの学校生活と卒業後の社会生活への期待を高等部3年生の代表が力強く語りました。

式に出席できなかった生徒にはリモートによる授与式が行われ、一人一人が希望に満ちた明日へ、心の翼を広げて巣立つ卒業式となりました。（教頭 阿部 裕子）



[リモートによる卒業証書授与]



[校長式辞]

# 研修紹介 令和4年度 特別支援教育課の新しい研修について



令和4年度は、特別支援教育の重点事項の達成に向けて、これまでの特別支援教育セミナー等から、学びの場ごとのニーズに対応した研修に変更しますので、概要をお知らせします。

## 特別支援教育の重点事項

- ・一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
  - ・新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成と実施
  - ・管理職のリーダーシップによる校（園）内支援体制の機能強化と全教職員の理解・取組
- 令和4年度 学校教育の指針より



子ども一人一人の自立と社会参加を見据え、教育的ニーズに的確に応える指導を提供できるよう、連続性のある「多様な学びの場」における指導・支援の充実に向けた実践研修を始めます。

「令和4年度 特別支援教育の研修案内」では、新しくなった各実践研修（通常の学級、通級による指導、特別支援学級）の他にも、その他の研修や各相談の内容を紹介しています。積極的に活用してください。

<令和3年度まで>		<令和4年度の新しい研修>		
特別支援教育セミナー		通常の学級実践研修 (特別支援教育支援員配置校)	通級による指導実践研修	特別支援学級実践研修
趣旨	・実践的指導力の向上 ・校内支援体制の充実	・実践的指導力の向上 ※校内支援体制の充実に向けて研修を希望する場合は、専門家・支援チームによる支援や特別支援学校のセンター的機能等を活用してください。 (高等学校においては高等学校特別支援隊を活用してください。)		
対象	・学級担任、担当者	・通常の学級の担任(教科等の担任含む) ・特別支援教育支援員	・通級による指導担当者 ※管内の通級による指導担当者も協議等への参加が可能	・特別支援学級担任
回数	・年1～2回	・1校につき年1～2回	・年1回	・年1回

### 研修内容(例)

通常の学級実践研修  
(特別支援教育支援員配置校)

#### 中学校 通常の学級の場合

10:20～11:10 授業提示(社会科)  
13:30～15:00 関係職員による協議

参加者: 学級担任、教科担当教員、校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、学年主任、特別支援教育支援員、その他の関係教職員(教務主任、研究主任 等)

### 各実践研修における協議内容(例)

- 通常の学級実践研修(特別支援教育支援員配置校)
  - ・各教科等における個々の学習上の困難さの理解と指導の工夫
  - ・学級担任と特別支援教育支援員の連携の工夫 等
- 通級による指導実践研修
  - ・在籍学級との連携を通じた各教科等との関連による効果的な指導
  - ・校内及び地域の特別支援教育の推進に向けた取組 等
- 特別支援学級実践研修
  - ・児童生徒や学級の実態に応じた特別の教育課程の編成と実施
  - ・効果的な交流及び共同学習の計画と実際 等

※各学校・学級の課題解決を図る効果的な研修となるよう、研修案内のA共通メニュー、B障害種別メニューを参考に日程等を計画してください。

## 事業紹介

# 障害児の体育・スポーツ活動充実事業

特別支援教育課では、令和2年度から特別支援教育の教育専門監を県立栗田支援学校に配置しています。今回はその取組を紹介します。

### ○特別支援学校における体育指導 訪問回数 5校 計30回（令和2・3年度）

～児童生徒が楽しく学びながら「できる」を実感する体育の授業を目指して～

体育は、児童生徒の得意・不得意や、各運動のできる・できないが明らかになりやすい学習です。訪問した学校では、児童生徒が意欲的に取り組むことができるよう、教師の工夫がたくさん見られました。さらに意欲的に運動できるよう、次のような内容を伝えています。

- 児童生徒は、苦手な運動が少しでもできるようになると、各運動に自分から積極的に取り組むようになります。
- 児童生徒は、できない動きが少しずつできるようになった、又は、できる動きがさらに上手になったと自分で感じられると、意欲をもつとともに、自信にもつながります。

そのための手立てとして、

- ①教材・用具の工夫（スモールステップでの段階的な学習、分かりやすい補助教材の活用）
- ②児童生徒の「できない動きが少しできた」を見逃さない教師の姿勢
- ③教師の支援（言葉がけ、動きを支え導く、見守り、演示等）等が大切になります。



[手の付く位置、踏切位置を示した補助教材の活用]

訪問した学校では、空手道、グラウンドゴルフ、ピン倒しボール、水泳、陸上、トランポリン、ドッジボールを扱った授業づくりに携わりました。各校とも体育ノートやICTの活用が充実していました。今後も児童生徒がいろいろな運動を楽しく学びながら、技能の向上につながる授業づくりとなるよう、学校訪問の機会にサポートしていきます。

### ○障害者スポーツ（ボッチャ）の体験

東京2020パラリンピックの正式競技の「ボッチャ」は、ルールが分かりやすいスポーツです。今年度は、主にあきた県庁出前講座として小学校や地域の団体等から依頼があり、9校（団体）28回訪問しました。はじめにパラリンピックの紹介を含め、障害者スポーツについて理解していただきました。その後、参加者のニーズに応じてコートやルールを変更した上で、時間いっぱいボッチャを楽しめるよう、体験時間を設定しました。



[居住地区校交流でのボッチャ体験]

どの年代でも気軽に楽しめ、取り組みやすいスポーツなので、今後も各地でボッチャを普及していきたいと思います。（栗田支援学校 教諭（兼）教育専門監 石垣 徹）



## 令和4年度 特別支援教育かがやきミーティング

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のため、学校（園）の教職員や保護者、関係者等を対象に、3地区で開催します。

< 県北 > 8月 1日（月）オンライン開催（北秋田市文化会館での視聴も可）  
国際教養大学国際教養学部 助教 橋本 洋輔 氏

< 県央 > 10月20日（木）県総合教育センター（オンラインでの視聴も可）  
県立医療療育センター 副センター長 室岡 守 氏

< 県南 > 8月 2日（火）オンライン開催（浅舞公民館での視聴も可）  
宮城学院女子大学教育学部教育学科 教授 梅田 真理 氏

※詳細については、新年度あたためてお知らせいたします。